

## ⑥地域社会における差別事件

長野県では、「お前らチョーリップだ」と、長野市清掃センターで二〇一〇年五月二六日、家屋廃材を軽トラックで持ち込んだ男性が受付を断られたことに対して、センター職員に差別発言をした事件が明らかになった。

事件は、白色の軽トラックに家屋解体廃材を積んで、作業着姿の四〇～六〇代と思われる男性が、清掃センターに来所(同乗者は六〇代と思われる男性)。職員が「家屋廃材は受け付けられない」とていねいに説明し、市内で受け入れのできる業者一覧表を手渡した。男性は何事もなかったようすで一覧表を受け取ったが、受け付けてもらえないと分かったと「お前らは税金で食っているんだから、チョーリップだ」と大声で三回くりかえした。また精算側に車を回し一旦車を止めて「お前らチョーリップだ」と二回くりかえして走り去った。同乗者は終始無言だった。差別発言を受けた職員は、午前中の業務が終了したあと、昼食時に上司に報告し、上司が長野市人権政策課に連絡して事件が明らかになった。

また、一一月一日にも、長野市清掃センターで、同様の差別発言事件が起きている。五〇歳代前後の男性が可燃・不燃の混在する廃棄物を軽トラックに積んでセンターへ来所。担当の職員が分別の指示を投入場所で受けてほしい旨と計量棟入場の安全のために設置してある信号を守ってほしい旨を丁寧に告げると、「そんなことは知っている」と言い、その後「そんなことを言うのは、お前らチョーリップだけだ」と続けて二回言ってごみを捨ててに行った。男性職員二名が車を止め、その発言をした男性の住所、名前、電話番号を聞き取るとともに車両番号を確認・記録、長野市人権同和政策課へ報告をしている。

大阪府では、部落地名総鑑発覚から三五年を迎える二〇一〇年六月、八尾市のY図書館で市民が部落地名総鑑を検索してほしいと依頼した差別事件が発覚した。二〇一〇年六月二〇日に八尾市在住の三〇代の男性Aが八尾市のY図書館のカウンターで図書司書Bに「部落地名総鑑を検索してほしい」と依頼。検索することが差別につながると考えたBは「(部落地名総鑑は)差別するために存在する本ですので提供できません」と対応した。「何でですか」と何度も食い下がるAとのやりとりを見ていた別の司書Cが対応し、「差別をするための本ですので、取り寄せしません」と回答し、Aは帰宅した。

八尾市が事件を把握したのは、図書館からの報告ではなく翌日、警察からの連絡だった。検索を依頼したAは、図書館に出向いたその日の深夜に八尾警察署の刑事課職員Dへ「図書館の対応が悪くて眠れない」と電話相談。翌日の昼過ぎには、自身が警察へ出向き相談。部落地名総鑑の検索を依頼した動機について「転居に際して、住所を知りたかった」とのべ、刑事課職員Dから「そういうことを聞くこと自体が問題である」と指摘を受ける。その後Aは図書館の対応が悪い、と図書館や教育委員会へと何度も苦情を繰り返す行為にいたった。

八尾市は差別事象発生時の報告マニュアルが作成されており、事件後に八尾市から差別事象についてのマニュアルが図書館に届く。そこには事件発生日時や差別内容、名前などの項目を書きこめるようになっている。しかし、司書B、Cはこれまで一度も見たことがなかった。八尾市の人権研修は正規職員だけを対象にしており、検索依頼を受けた司書B、Cは嘱託職員のため、対象から外れ一度も受けたことがなかった。職種にかかわらず全職員への研修が必要と八尾市人権政策課へ確認した。

奈良県では、水平社博物館前で「エッタ博物館、非人博物館」「エッタ出てこい。どエッタ」などの差別発言を「在日特権を許さない市民の会(在特会)」のメンバーが連呼し、企画展を妨害する差別煽動事件がおきている。

在特会が二〇一一年一月五日、御所市柏原にある水平社博物館に来て、開催中の企画展「コリアと日本—韓国併合から一〇〇年—」の展示内容に対して、「事実と異なる」などと企画展への妨害行動をおこなった。また同月二二日には、同博物館前でハンドマイクをつかって街宣をおこない、「自分は川東大了だ」と名乗り「目の前のエッタ博物館、非人博物館」「エッタ出てこい。どエッタ」などと差別発言をくり返した。在特会は、東京に本部を置き、「在日特権の完全な廃止」「入管特例法の廃止」「過去の歴史の清算」などを目的に活動し、差別・排外主義を煽動している。二〇〇九年一二月四日に京都朝鮮第一初級学校の校門前で「北朝鮮のスパイ養成所。日本から出て行け。スパイの子ども」などと一時間にわたって叫び、授業を妨害した(朝鮮学校襲撃事件)ことから二〇一〇年八月一〇日に京都府警が同会幹部ら四人を威力業務妨害の疑いなどで逮捕している。